

あいち清流



2026/7/20

会報 第168号

一般社団法人 愛知県環境測定分析協会



「森の新入り」

撮影地：長野県木曽郡南木曽町 南木曽岳林道
撮影日：2024年8月1日
提 供：林 昌史 氏
(株式会社環境科学研究所)

コメント：夏の源流域から帰り道、鬱蒼とした林道を通り、山を下っているときに会った森の小さな新入り。今度来るときまでの新入りの無事を祈りながら山を下りました。

目 次

令和8年度 定時社員総会報告	2～3
委員会活動報告	3～4
「令和7年度 特別企画セミナー」開催報告	4～6

「令和8年度 騒音・振動WG勉強会」参加報告	6
新会員紹介	7
事務局からのお知らせ	8

四季折々

いよいよ夏の姿が見え始めました。今年も梅雨と気温の話のしようと思います。

昨年の梅雨入りはかなり早く、原稿を書いていた6月上旬には梅雨真っ只中でしたが、今年の梅雨入りは平年並で、ちょうど梅雨入りしたくらいです。今年の梅雨は昨年同様の陽性型（メリハリ型）で強雨や大雨の日があるかも知れません。本誌が届くころには梅雨明けぐらいと思われるので、今年の梅雨はどうだったか答え合わせが出来るかも知れません。ちなみに昨年は平年より降水量が少なく、雨の日も少なめでした。

続いて気温のお話ですが、今年は4月に『酷暑日』という名称が決まったことの発表が気象庁からありました。最高気温が40℃以上の日の名称ですが、……昨年の四季折々では「最高気温35℃以上の『猛暑日』が増えるのは困る」というような事を書いていて……やはり困りますね。

昨年は名古屋で最高気温40.0℃の日が1日ありましたが、今年はどうなるのか……まだこれから暑くなるはずですが、『酷暑日』の文字は見たくないですね。昨年、3年連続の記録的な高温、国内最高気温の記録更新でしたが、今年の夏も平年より気温が高い予想で、猛暑となるおそれがあるため、さらに更新される可能性もあります。皆様、日々体調に気を付けてお過ごしください。

記録と言え、6月初めに台風が上陸しました。これは14年ぶりだそうで、こういった記録的な話が出てくると続いて記録的な事が起きそうな気がして不安になります。

屋外作業が主なため、どうしてもこの時期の気象は面倒に感じる人が多いですが、自然環境的にも生活環境的にも必要な現象なのでうまく付き合っていきたいです。

ただ、『猛暑日』『酷暑日』が続くのは勘弁していただきたいです。
文責 松本 貴郁

令和8年度 定時社員総会報告

事務局長 近藤 浩史

一般社団法人愛知県環境測定分析協会の令和8年度定時社員総会が6月9日、愛知県環境局技監 大谷真弓様と愛知県経済産業局中小企業部商業流通課 担当課長 長谷川秀幸様のご臨席を賜り、名古屋市熱田区のサイプレスガーデンホテルにおいて開催されました。

総会は、正会員64名中54名（委任状も含む。）のご出席のもと、はじめに林会長の挨拶に続き、来賓の大谷様にご祝辞をいただきました。

続いて議事の審議に移り、事務局による説明の後に採決が行われ、令和7年度の事業報告及び収支決算が可決され、また、令和8年度事業計画及び収支予算が承認されました。



（林辰哉会長
のご挨拶）



（愛知県環境局
大谷技監から
のご祝辞）

総会に先立ち、表彰式が行われ、計量士として長年計量管理の推進に貢献された株式会社愛研の石神昇氏が愛知県計量関係功労者として愛知県知事から表彰を受け、続いて正会員従業員表彰として13名が林会長から表彰を受けました。



（愛知県計量関係
功労者表彰受賞
の石神昇氏
（右））



（受賞者の皆様
と記念撮影）

表1 愛知県計量関係功労者表彰受賞者

氏 名	所 属 事 業 所
石 神 昇	株式会社愛研

表2 正会員従業員表彰受賞者

氏 名	所 属 事 業 所
新 居 友 日	株式会社三進製作所
伊 藤 颯 飛	株式会社イズミテック
大 西 政 也	株式会社大同分析リサーチ
大 橋 正 美	株式会社愛研
織 田 由香利	株式会社東海分析化学研究所
近 藤 美枝子	株式会社ユニケミー
佐 藤 哲	東亜環境サービス株式会社
中 野 雅 人	株式会社愛研
中 村 美弥尾	株式会社コスモ環境衛生コンサルタント
西部山由香里	一般財団法人東海技術センター
増 田 有 紀	一般社団法人愛知県薬剤師会
水 谷 佑 香	一般社団法人愛知県薬剤師会
森 木 みどり	株式会社環境科学研究所

また、「令和8年度環境に関する喚起標語」入選者の表彰も行われ、特選のサンエイ株式会社の近藤好氏に賞状が授与されました。



【特選作品】

『信頼築いて価値を生む
価格に映す測定技術』

以上3つの表彰の受賞者を代表して、株式会社愛研の石神氏から「表彰の栄を賜り、身に余る光栄と感謝しております。このたび表彰された者は、長年にわたり、環境測定分析に携わり、それぞれの立場で、社業及び、業界の発展のために、地道に努力してきた結果が、評価されたものと考えております。本日の受賞を機に、今までの経験を活かして、業界発展のため、さらに努力を致す所存であります。」と謝辞が述べられました。

総会終了後、アライツ社労士事務所 浅野貴之様による『今後の労働関係法の改正に向けて今から出来る実務対応』と題した特別講演が行われました。

昨今また今後も、多くの改正が行われる労働関係法令・制度について具体的な事例を交えながら、分かりやすくお話をいただき、大変有意義なものとなりました。

この後行われた懇親会には、会員55名の方々の他、特別講演講師の浅野様にもご参加いただきました。

普段なかなか顔を合わせて懇談する機会の少ない会員同士が和気あいあいと会話を弾ませ、講演の内容に対する質問をするなどたいへん賑やかな宴となりました。

委員会活動報告

◇ 総務委員会

第1回総務委員会を5月8日に書面開催いたしました。委員会では167号に掲載済みの令和6年度景況調査結果について報告するとともに、6月9日開催の定時社員総会における正会員従業員表彰候補者の書類審査をおこないました。本年度定時社員総会において正会員従業員表彰を受けられました皆様、おめでとうございます。環境計量技術の維持発展に向け、さらなる研鑽を積まれることをご祈念申し上げます。なお、6月29日に開催した環境月間講演会につきましては、10月発行の次号で紹介させていただきます。

総務委員長 大場 恵史

◇ 企画・広報委員会

令和8年度第1回目の委員会を5月8日に書面開催にて実施、令和8年度第2回目の委員会を対面開催で7月3日に愛環協事務局にて開催しました。

令和8年度企画・広報委員会体制については2年毎の更新の為、変更はありません。

本会報誌168号の記事・編集スケジュールについて役割を確定し編集作業を進め皆様のお力をお借りし無事に発刊出来ました。ありがとうございました。

令和8年度施設見学会は10月に実施予定です。

前回の施設見学会のアンケートで次の開催場所はどこが良いか聞き取ったところ東山動植物園でした。東山動植物園を第一候補で考えながら、もっとふさわしい開催場所の検討も実施して行きます。

企画・広報委員長 石井 良孝

◇ 教育研修委員会

6月11日、12日に環境測定分析新任者研修会をオンラインで開催しました。73名の参加者のうち、35名が中部地方以外からの参加者であり、全国各地からご参加いただきました。教育研修委員会では、7月24日に精度管理研修会①【基礎統計コース】の開催を予定しています。

その後、9月17日・18日に精度管理研修会②【中堅実務コース】、10月30日にSOP研修会、11月19日に環境計量士等研修会を開催する予定です。なお、SOP研修会以外はオンラインでの開催となります。多数のご参加をお待ちしております。

教育研修委員長 牛古 誠

◇ 技術委員会（水質、大気、騒音）

5月8日に令和8年度第1回技術委員全体会議を開催しましたので、ご報告いたします。

☆ 水質・土壌ワーキンググループ

今年度は、模擬排水中の銅および全クロムを対象とした共同実験を実施します。現在、サンプル容器の入手が困難な状況となっているため、入荷状況によっては日程を変更させていただく場合がありますので、あらかじめご了承ください。報告期限は8月7日としておりますので、期限までにご提出をお願いいたします。なお、結果検討会は12月11日に開催する予定です。

☆ 大気・臭気ワーキンググループ

今年度は、令和9年1月下旬から2月上旬頃に意見交換会の開催を計画しています。勉強会や共同実験に参加された方々から、交流の機会を望む声を多くいただいたことをきっかけに企画を進めています。テーマや運営方法など詳細は今後検討していきますが、参加者の皆さまに有意義な場となるよう準備を進めてまいります。

☆ 騒音・振動ワーキンググループ

本年4月の勉強会に引き続き、11月頃に低周波音を対象とした共同実験を計画しています。会場や機材の確保など検討すべき課題はありますが、低周波音測定を実際に体験していただける機会となるよう、引き続き企画を進めてまいります。

技術委員長 伊藤 諭志

◇ 災害緊急時対応委員会

令和8年度初頭の「緊急連絡先変更」では、災害協力認定会員様のご協力をいただき、ありがとうございました。更新した名簿は自治体に配布を行い、災害時の連絡体制の堅持に努めます。

本年度は、例年実施しております同時調査訓練などの活動に加え、9月11日に他県単と締結している災害時相互応援協定に関する意見交換会を、当協会が幹事となり開催いたします。そのため、活動の多い一年となりますので、委員会活動への一層のご理解とご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

災害緊急時対応委員長 林 昌史

「令和7年度 特別企画 セミナー」開催報告

総務委員長 大場 恵史

3月25日に愛環協・日環協中部支部共催で特別企画セミナーを開催しました。セミナーはN i t e r r a 日本特殊陶業市民会館にて対面式で開催し64名が参加しました。



(林会長の挨拶)

第1部の「計量証明事業所への立入検査について～最新情報～」では、愛知県経済産業局 中小企業部商業流通課 千東尚久氏より、立入検査のポイント等についてご講演いた

だきました。特に、JISの改訂に伴い事業規程変更届出が必要なこと、未登録の分析機器を使用することは違反であること、定期的な外注先の調査が必要なこと、など具体的な事例を交えて分かりやすくご説明いただき、社内・現場で再確認しなければならない有益なご助言が多かったように思いました。



(第1部：千東氏のご講演)

第2部の「情報セキュリティ 10大脅威とその対策」では、独立行政法人情報処理推進機構 セキュリティセンター サイバー情勢分析部 調査グループ 研究員の金子成徳氏より、特に重要な4つのセキュリティ脅威について、実際に起こった事例の紹介を交えてご説明をいただきました。

順位が第1位の「ランサムウェア攻撃」では、攻撃を受けているのは中小企業の製造業が多いこと、身代金は絶対に支払わないこと等が紹介されました。第2位の「サプライチェーンを狙った攻撃」では、取引先・委託先の脆弱な部分が狙われやすいことが説明されました。第3位の「AIをめぐるサイバーリスク」では、高校生が生成AIでサイバー攻撃をした事例などが紹介されました。第4位の「内部不正による情報漏洩等」では、従業員のUSBによる重要データを持ち出した事例、メールの誤発信による情報漏洩の事例などが紹介されました。

これらの情報セキュリティの対策としては、パスワードを複雑にした上でこまめに変更すること、こまめにソフトウェアをアップデートすること、社内ネットワークのアクセス権限をなるべくせまくすることなど、愚直に脆弱性対策を徹底するのが重要であるとのことでした。最後に広島県水道広域連合企業団で利用していた「e-計量システム」がサイバー攻撃を受け情報漏洩した事例が紹介されました。その後の対応状況や再発防止に向けた取り組みなどをホームページなどで積極的に情報公開することがとても重要で評価できるとのことでした。





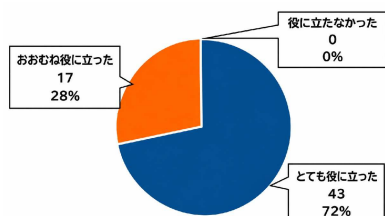
(第2部：金子氏のご講演)

今回は例年以上に多くの方々にご参加をいただきました。セミナー終了後の懇親会でも、参加者、協会スタッフが有意義な情報交換を行うことができ大変盛り上がりしました。愛環協では、H O Tな話題、そして、みなさまのご要望にお応えできる内容をご提供できるよう、今後も特別企画セミナーを開催してまいります。これからも、愛環協の活動へご協力をお願いします。最後にセミナー後に記載していただきました愛環協のアンケート結果についてご紹介いたします。

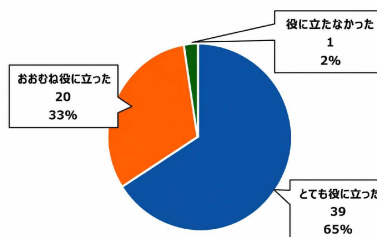


(懇親会の様子)

① 第1部：「計量証明事業所への立入検査について」の満足度（全60件）



② 第2部：「情報セキュリティ 10大脅威とその対策」の満足度（全60件）



③ セミナー全般に関する感想（主なもの）

- ・いずれのテーマもとても参考になった。今後の業務の参考にしたい。
- ・質疑の時間が短い。
- ・1題の時間を短くして3題の講演がよい。
- ・立入検査の内容は非常に参考になった。抜けている部分について対応するきっかけになる。
- ・立入検査の内容は例年通りだが、新しい知見が含まれておりよかった。
- ・社内で業務をしていると全体の流れが分かりにくいのが、立入検査の話で、自分の業務が全体のどの部分にあたるのか理解できた。
- ・立入検査の行政の方が企業の実務担当に求めることを率直な言葉で伺えてよかった。
- ・社内の計量管理の問題点を確認できた。是正を進めていきたい。
- ・立入検査の実例を聞けて参考になった。
- ・情報セキュリティのテーマは、普段の計量関連セミナーでは得がたい情報で大変貴重だった。
- ・身近に起こりえる内容（セキュリティ）のため、今後も引き続き注視していく話だと感じた。
- ・セキュリティ面に関して会社の取組みが不十分であることが分かったため、今日の内容を社内にはっきり展開したい。
- ・VPNが導入元になりやすい事について自社のネットワークを見直す機会を得られた。
- ・セキュリティの現在の情報に触れて、自身のアップデートができた。
- ・IPAのセミナーは小規模でも構わないので定期的の実施してほしい。
- ・セキュリティに関して、一般的に内容に加えて、環境測定企業向けの情報が欲しい。
- ・セキュリティ対策ができていないので不安が大きくなった。

④ 今後希望するテーマ（主なもの）

- ・立入検査の内容は引き続き実施してほしい
- ・JISK0102の改正情報、動向

- ・計量証明事業における人材育成手法（事例紹介など）
- ・分析測定に関わる資源の話（試薬など）
- ・ヘリウムガスの供給と代替手法
- ・検査原価上昇への対応策や価格設定の検討
- ・ピーファス関連の動向
- ・マイクロプラスチック
- ・WET 試験の最新情報と動向
- ・低濃度 PCB 汚染物の処理等
- ・業界の（すすむべき）新しい市場
- ・世界情勢を踏まえた分析業界の現状
- ・最新の分析業界の動向、新たな分析法、法改正
- ・生成 AI の選定、活用、リスク

「令和8年度 騒音・振動 WG勉強会」参加報告

株式会社環境科学研究所 佐々木 健

4月17日に開催されました、「令和8年度 騒音・振動 WG勉強会」に参加しました。

勉強会は、「低周波音について」、「騒音のモニタリングシステムについて」、「騒音・振動の環境調査に関する質疑応答について」の3部構成で行われ、最後に質疑応答の時間が設けられました。

「低周波について」では、低周波の特徴や主な発生源、可聴域周波帯との違い、測定方法と評価、対策等の解説がありました。低周波の特徴として、人の可聴域外とされる20Hz以下の周波帯も含まれ、音として認識されにくい点が挙げられました。その反面、戸や窓のがたつき、睡眠障害や頭痛の要因として人の健康への影響があり、低周波に起因する苦情は多岐にわたることです。一方で、道路橋の振動をはじめ、航空機のエンジン、鉄道がトンネルを通過する際等、低周波を発生させる要因は生活圏に多く存在し、長距離を伝搬しやすく、遮音壁等の効果が低い点等が低周波の問題として挙げられました。

低周波の伝搬特性は騒音と同じく、「1/3オクターブ分析」が有効とされ、これにより、どの周波帯が高いかを確認することで対策へ反映できると教えていただきました。

低周波測定に環境基準値は無く、物的苦情、心身に係る苦情のそれぞれに参照値があり、これらを評価基準とすることについても解説いただきました。心身に係る苦情の評価には「G特性」が用いられ、例として92dB以上であれば20Hz以下の低周波音による苦情が考えられるとのこと。今回の講義では例題があり、対策前と対策後の音圧レベルから求める流れを知ること実践的に学ぶことができました。音圧レベルとG特性補正值から、G特性音

圧レベルを求めた後、これらを足し合わせたものの対数表示で求めることができました。

測定時の注意点として、測定時の風雑音が挙げられました。風雑音は周波数の中でも低い帯域に現れやすく、補正できないため現場での状況確認、記録が重要とのこと。また、建物内でも扉の開閉による気圧変化等の影響を考慮した測定が重要とのことでした。私も普段の騒音測定の際には、風防の取付けをはじめ、結果に影響を与えないよう配慮していますが、低周波測定は、より繊細な配慮が必要であると感じました。

勉強会の後半では、リオン株式会社様から製品や測定に関わる問い合わせ事項の内容紹介、無線LANを活用したモニタリングシステムのご紹介がありました。私が普段従事している測定では、複数地点に騒音計を設置した際に、巡回しながら聴感の記録と機器の点検を行っております。このモニタリングシステムを導入した場合、異常値等の発見がリアルタイムで行うことができ、作業効率の向上も期待できました。また、専門的に騒音測定に携わらない作業員でも管理が容易になると感じました。

今回の勉強会では、低周波の概要から、測定技術や関連機材について学びました。ここで得た知識を普段の業務に発展させ、測定技術の向上につなげられるよう励みます。



(WG勉強会の受講風景①)



(WG勉強会の受講風景②)

新会員紹介

日本環境分析センター株式会社
名古屋営業所
(松井 円)

この度、(一社)愛知県環境測定分析協会に正会員として新たに入会させていただきました、日本環境分析センター株式会社と申します。入会にあたり、貴重な紙面をお借りして弊社の事業内容解説、およびご挨拶を申し上げます。



(大阪本社 外観)

弊社は1995年の創業以来、環境保全の重要性を認識し、環境分析の分野において社会に貢献することを使命として活動してまいりました。計量証明事業所として、水質分析、土壌分析、その他にも作業環境測定、アスベスト分析、PCB分析など、多岐にわたる環境調査・分析を行っております。近年では、マイクロプラスチックの分析が可能なLDIRや、微量PCB分析が可能なGC-MS/MS等の最新設備を導入し、精度の高い分析を通じて持続可能な社会の実現に向けた取り組みをサポートしております。

特にアスベスト調査におきましては、事前の書面・目視調査から建材採取、電子顕微鏡等を用いた詳細な分析までを一貫して実施できる体制を整えております。採取現場においては、密閉状態で安全に建材を採取できる「チャント袋」を活用し、人が居ながらの作業や建物が稼働中の状態でも対応可能な手法を確立しております。また、社内には「建築物石綿含有建材調査者」等の有資格者が多数在籍するほか、分析部門では走査電子顕微鏡(SEM-EDS)などを用い、厚生労働省の石綿則に基づく事前調査のアスベスト分析マニュアルに準拠して分析を行っております。

愛知県内の拠点である「名古屋営業所」におきましては、現場での採取業務をメインとして活動を続けており、本年度18年目を迎えます。



(チャント袋を使用した採取状況)

弊社では、異なる分野の知見を「点と点」で結びつけ、総合的にお客様の課題解決に導く視点を大切にしております。

毎年「神戸港カッターレース」にチームで出場するなど、事業所の垣根を越えて培われたチームワークを活かし、一つひとつの業務に実直に取り組んでおります。



(第48回 神戸港カッターレース出場の様子)

この度、正会員として入会させていただきましたので、会員の皆様と現場の知見を共有し合い、環境計量証明に携わる一員として(一社)愛知県環境測定分析協会の活動に積極的に協力してまいりたいと考えております。業界の健全な発展と環境保全の一助となれるよう、努めてまいります。協会の皆様からのご指導、ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

【会社情報】

日本環境分析センター株式会社 名古屋営業所
〒462-0058
愛知県名古屋市北区西志賀町1丁目48番地
TEL 052-912-9910



事務局からのお知らせ

林昌史理事 愛知県功労者表彰 受賞

林昌史理事（㈱環境科学研究所・写真右）が、6月4日、令和8年度環境保全関係功労者の「環境衛生事業功労（長年にわたり環境衛生事業の推進に尽力し顕著な功績をあげた個人）」として、愛知県知事から表彰を受けられました。

おめでとうございます。



【精度管理研修会②（中堅実務コース）】
令和8年9月17日（木）・18日（金）
オンライン開催

【SOP（標準作業手順書）研修会】
令和8年10月30日（金）
N i t e r r a 日本特殊陶業市民会館
（名古屋市中区金山）

【環境計量士等研修会】
令和8年11月19日（木）
オンライン開催

○事務局夏季休暇のお知らせ
8月12日～14日は、夏季休暇となります。

編集後記（佐藤 勇人）

夏になると、公園や街路樹からセミの鳴き声が聞こえてきます。「セミは土の中で何年も過ごすのに、地上では『1週間』しか生きられない」という話を耳にしたことがある方も多いのではないのでしょうか。

しかし近年の研究では、セミの成虫は種類や環境によって異なるものの、実際には地上で『2～4週間』ほど生きる場合もあることが分かっています。かつて、「1週間」だと思われていた理由は（諸説ありますが）、昔の虫かご飼育では本来の樹液（エサ）を再現するのが難しく、捕獲して飼育しても1週間ほどしか生きられなかったためだといわれています。

これに対して、2019年5月の発表で、岡山県の高校生が、独自の野外調査を実施して、『アブラゼミ、ツクツクボウシ、クマゼミの3種で10日以上生存を確認。最長生存確認記録はアブラゼミが32日間、ツクツクボウシが26日間、クマゼミが15日間だった』と示し、「寿命1週間は俗説」とであると証明しました。

身近な生き物にも、調べてみると意外な事実が隠されています。夏の自然に目を向けながら、季節の移ろいを楽しみたいものです。

末筆ながら、今号にご寄稿いただきました皆様に心より感謝を申し上げます。本誌では今後も、読者の皆様のご興味を引く話題・情報を提供して参ります。



発行人 （一社）愛知県環境測定分析協会
会長 林 辰哉

〒460-0022
名古屋市中区金山1-2-4
アイディエリア405号
TEL: 052-321-3803
FAX: 052-684-4238
E-mail: aikankyo@nifty.com

編集 （一社）愛知県環境測定分析協会 企画・広報委員会

委員長：石井 良孝
副委員長：柳下 武己
委員：中野 雅則、日野 栄一、長瀬 勝、
松本 貴郁、渡部 すみれ、佐藤 勇人